

令和7年度東毛地区小学校体育科授業研究会 レポート

○日時：11月5日（水）
○会場：桐生市立南小学校
○単元名：タグラグビー
○指導者：田中 健太 教諭

今年度の東毛地区の授業研究会は、桐生市立南小学校の田中健太教諭が授業を提供してくださいました。今回、公開していただいたタグラグビーは、小学校学習指導要領に例示されている、「ゴール型ゲーム（陣地を取り合うゲーム）」の代表格となる種目だと思います。今回のレポートでは、以下の3点を基にまとめていきたいと思います。

1. 作戦を基にゲームに取り組む工夫

- ・攻撃のパターンを示した4つの作戦が例示された作戦カードを使用しました。カードは、常に子ども同士で立ち返るものとして活用でき、また、作戦に難易度をつけたことで児童が選びやすい設定となっていました。
- ・作戦カードやボード、マグネットを活用することで、ゲーム全体を俯瞰して思考することができ、自らの役割をしっかりと理解してゲームに取り組むことができました。
- ・作戦カードを提示し、チームに合った作戦を選び、「ゲームで試す→振り返る→ゲームで試す」というサイクルで進められており、オリジナルの作戦を考え出すチームもあるなど深まりが見られました。

2. 児童が主体的に取り組む工夫

- ・作戦ボード、グループごとのかご、前時までの学習内容の振り返り等を用意することで、主体的に活動しやすい環境が整えられていました。
- ・前時までにクラスで工夫してルールを作成したこと、児童がルールをしっかりと理解し、ゲームに取り組むとともに、児童同士のプラスな声かけが多く、認め合う雰囲気が醸成されていました。

3. 教師の働きかけ

- ・田中教諭は児童と積極的に関わり、プラスの声かけや思考を深める問い合わせが多く見られました。
- ・「トライをするために」という、めあてを活動の途中でも確認することで、めあてに向かって活動することができていました。



前時までの学習内容を基に、めあてをたてています。めあてをしっかりと意識して授業に取り組む姿が見られました。



作戦ボードを使い、話し合いを行っています。チームの特性に応じて作戦を選び、実践することで、話し合いにも深まりが見られました。



ゲームで試した作戦について、ふり返りをしています。田中教諭の適切なアドバイスにより、話し合いが深まり、次のゲームに生かすことができました。



選んだ作戦をゲームで試しています。トライができたときは、とても盛り上がり、子どもたちが楽しんでタグラグビーに取り組む様子が感じられました。

授業研究会では、活発な意見交換がされました。研究会に臨む姿勢からも先生方の体育授業に対する意気込みが感じられました。また、群馬大学共同教育学部保健体育講座・木山慶子教授より、今後の授業実践へ向けて、「学習成果を出すための工夫」、「運動時間の確保と運動の質」、「教師の声かけや場の設定などのマネジメント」、「教材の系統性」などについて、ご指導をいただきました。今回の公開授業及び研究会は、よりよい体育授業の実践につながる貴重な機会となりました。授業を提供してくださった田中先生、そして、会場を提供してくださった桐生市立南小学校の先生方、研究会開催にご尽力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

(文責：桐生市小学校体育研究会)